

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第18号  
2011年11月12日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 11・6 労働者集会に5950人

## 国鉄闘争全国運動を拡大し闘う労働組合を甦らせよう

### 主催4団体からのアピール

全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部 高英男副委員長

昨年7月より11月中旬まで139日に及ぶ生コン産業セネラルストライキは、共同する4労働組合と生コン協同組合に結集する多くの生コン専業である中小企業との共同闘争で闘われ、在阪セネコンのほとんどが

生コン適正価格(値上げ)に依るといふ成果を挙げました。

しかし、ストライキ体制を解除した直後から、セネコンの圧力によるセメントメーカーの巻き返し攻撃が始まっています。現在では、大阪地区の広域協同組合は、セメントメーカーが労働組合への対決姿勢を強め、生コン価格は下落し、過当競争



### 動労千葉、スト突入

銚子運転区の廃止に反対！

動労千葉は11月11日、「基地再編攻撃粉砕！ 京葉構内外注化阻止！ 組織拡大！」を掲げ総決起集会を行いました。銚子支部が5日から銚子運転区廃止反対のストライキに立ち上がっているなかで、DC会館の大会議室を埋めつくす組合員が結集しました。あいさつに立った田中康宏委員長は「現在、佐倉運輸区新設―運輸基地再編攻撃との攻防のただ中にある。当局は、移行のスケジュールも要員数も明らかにしないまま、とにかく線見訓練だけを強行

している。数百人にも及ぶ異動を組織破壊攻撃に使いきろうとしている」と当局の狙いを徹底的に断罪しました。さらに京葉車両センターでの構内業務外注化についても「10月1日実施を止め11月1日実施も止めた。千葉支社は計画を縮小して『12月1日実施は無理だが年内にも実施したい』と言っている。攻防の核心は来春の検修業務全面外注化にある。攻めて攻めて来年4月の決戦に持ち込もう」と訴えました。

銚子支部の渡辺靖正支部長が「支部で議論を重ねた末に指名ストに突入した。銚子運転区廃止反対、地方ローカル線切り捨て反対を貫いて闘

が激化する状況にあります。このような大阪広域協同組合に対して周辺地域の協同組合やセメント輸送・ミキサー輸送・圧送等の各協同組合が包囲網を強め、メーカー支配の産業から経済民主主義・人材育成等を中心に運営する生コン専業、中小企業主導の産業につくりかえる闘いを進めています。

私たちの闘いは、いまだ少数です。しかし、少数でも闘い方によっては社会を変える力を持つていけることを示しました。このような闘いを多くの地域・職場でつくり出すことができれば、大企業を優遇し、労働者を苦しめるこの社会を変える力となるのです。

私たちは小さな組合ですが、40余年にわたり主に中小企業で働く労働者の権利を守るために闘ってきました。そして「闘う労働組合のネットワーク」をつくるべく運動を続けてきました。運動の中心は「国鉄1047名解雇撤回闘争」であ

りました。闘いは終わっていません。和解を拒否して闘う国労の仲間と動労千葉争議団の闘いに連帯して勝利させるまで闘う決意であります。皆さん、どんな強大な敵であつても必ず弱点はあります。弱点を探し出し追及し、攻撃を加え、労働者が主人公の社会をつくりましょう。

われわれは、これに立ち向かい、外注化を阻止する具体的な闘いを実現することで、階級的労働運動の展望と可能性を示したいと考えました。この闘いの渦中で、若い仲間たちが動労千葉に結集し始めています。今年10月の外注化提案も阻止しました。そしてわれわれは、昨日から基地大再編・組織破壊攻撃に対する長期に及ぶであろう指名ストに突入しています。いま求められているのは労働運動の変革です。闘う労働組合 (裏面に続く)

(表面の続き)  
をよみがえらせることです。今日の集会をその新たな出発点にしよう!

### 国鉄闘争全国運動呼びかけ人 伊藤晃さん

現在の大きな問題は、主流労働組合の資本への追随性をどう打破するかである。連合は最近、原子力エネルギー依存度を徐々に低減する」という立場を表明した。3・11災害からの資本主義的復興の道の先導役を買って出る連合の姿が見てとれる。

一方、世界各地で民衆の意志が広く深い運動となって現れている。恐慌状態深化のなかで資本主義的支配構造を積極的に変革する道を切り開きつつある。日本の民衆運動をこの世界の大きな波に合流させないこと、これが日本の支配集団にとって、資本主義再建の最大の課題になっている。

これに對抗して私たちは広く運動の連帯をつくりだし、世界の闘う民衆に合流しようとしている。

そのための最大の課題は、労働運動を再建し、本来の役割に立ち戻らせることだ。国鉄闘争全国運動は昨年、闘う労働運動の伝統を最終的に抹殺しようとする4・9政治和解に対して、この伝統を積極的に再生させる目的でつくられた。

この運動は3・11以降の事態に広い活動の場を見出している。私たちは大きな希望をもってこの道を進んでいる。迷うことなく私たちの道を前進することだ。

# 原発なくそう！ 非正規職撤廃！

## 解雇撤回・国鉄闘争勝利へ

**●動労千葉争議団 中村仁さん**  
非正規を生んだのは国鉄分割・民営化です。われわれ99%の労働者が一つになれなかったからです。99%の労働者が一つになったら、資本なんかなんでもないんです。

そして、われわれの解雇撤回、これを闘います。福島は絶望を労働者の団結で希望に変えましょう。

### ●国労小倉闘争団 羽廣憲さん 国労本部は全国大会において

て、解雇撤回を貫いている私たちの組合員権を剥奪するという暴挙に出ました。絶対に許さない。この怒りとともに、福島の怒りと本場に結びついた闘いが今、私たちに求められていると思います。

**●動労水戸 照沼靖功さん**  
今、職場では、福島第一原発から20数キロのところから運ばれてきた車両がずっと置きっぱなしになっていて、それを検査するとか修繕するとか、掃除をやらせるなんていうふざけたことを言っています。それに対して、10月8日と13日にストをうって、検査反対をずっとやってきました。

今度の土曜日に、車両センターまつりという一般公開を行うんですけど、そんな危ない車両があるなかで、小さな子どもたちも来るのに、一般公開するなんて許せない。これも安全が確保されなければ絶対にやらせることはできない。それについても動労水戸は全員団結して



**元福島県教組委員長 清野和彦さん**  
9月30日、政府の原子力災害対策本部は緊急時非難準備区域に指定していた双葉郡などの5市町村解除を表明しました。本当に子どもたちは大丈夫なのでしょうか。

政府は、10月11日、放射能で汚染された地域の除染計画を発表しました。除染後の土壌は排出した市町村で「仮置き場」を設けて3年間管理する。その後、県で「中間貯蔵施設」をつくって30年間管理するということになっています。問題なのは、そうやって集めた主に草木は、集積されていくわけですから、極めて高い線量になるわけ

## フクシマからの訴え

です。市町村では仮置き場の場所が見つからない状況です。高濃度になるわけですから、誰もやらないのであります。結局は「核と人間は共存できない」ということを事実をもって示していることになりました。

東電と国策として原発を推進してきた政府と体制に事故の責任をとってもらいたい。徹底的に追及する以外にないということです。すべての原発を直ちに廃止するよう要求し行動を強化していかなければならないと思

いますし、再稼働は絶対に阻止しなければなりません。沖繩の米軍基地問題と国鉄分割・民営化と、それに続いた総評の解体、そして原発推進は

「差別的体制」「無責任の体制」「抑圧の体制」であるこの社会、資本主義の社会を根底から変革する以外に道がないことを明らかにしています。そのためには、労働者の闘いをなんとしても築き上げなければならぬと思

います。子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク 中手聖一さん  
事故から8カ月。いよいよこれから原発事故による被害が始まるうとしています。まだほとんどの人が汚染された福島に残っています。安全だという宣伝にだまされて何も知らずに暮らしているわけではありませ

ん。とどまりながら毎日必死に子どもを守ろうとしています。経済産業省が避難の基準として、大人も子どもも同じく20



闘っていきます。

### ●元国労九州本部書記長 手嶋浩一さん

今日、私は九州を発つてくる時に負託を受けました。玄海原発に反対し、九電本社前に

毎日座り込んでいます。今日で201日目です。そこで、福岡の平和台球場で、この11月13日に1万人集会を行います。今日ここに参加される皆さん、九州で知り合いの方があつたら、11月13日に平和台球場

で1万人集会をやるので参加してほしい」ということをぜひお伝えしたいと思います。

「シールベルト」までは被曝させるんだという基準を出してきました。福島県内の議会人たちは口をそろえて脱原発、除染、補償と言っています。ほとんどの人間が避難の「ひ」の字も出さず、まったくわかっていません。補償ももちろんしてもらわなければなりません。しかし目の前の命を守らずにどうしようと言っているんですか。

私は確かに被災者としてここに立っています。しかし純粋に被害者としてここで話すことはできません。これまで40年もの間、原発を建てさせ、動かさせ、止めきれずにいた大人の一人として子どもたちに責任をとらなければいけない。そんな思いがこの活動を始めました。決してあきらめない。そう思っています。

この闘いを負けないで闘っていくことをお願いし、全国運動のさらなる発展を訴えます。

